



歴史資料館だより

十字の園

特集

祈りと奉仕から生まれた十字の園

—ディアコニッセ母の家からつながる福祉実践の歩み—

社会福祉法人十字の園 理事長 鈴木 淳司

ディアコニッセ来日

十字の園のはじまりに、ディアコニッセ（奉仕女）の方々の働きがありました。長谷川保氏（聖隸福祉事業団 初代理事長）がディアコニッセの方々を「物言う手」と言う記録映画で知つて、彼女たちを日本に迎えることになりました。記録映画が上映されたのは、一九三四年（昭和九）年に御殿場で開かれた「イエスの友会」全国大会の事です。映画は、盲聾啞の子どもたちが、ディアコニッセの愛による実践を通して、希望を見いだしていく姿が映し出され、彼女たちの献身的な愛の姿に長谷川保氏は感動し、心に強く残りました。その大会で、長谷川保氏は主催者である賀川豊彦氏に援助を求め、賀川豊彦氏より助言を受け、長谷川保氏は聖隸



長谷川保氏

社（当時）の結核患者の困難な状況と社会的弱者の困窮した現実を大会参加者に訴えました。そこで「一坪献金運動」が決議され、全国の有志に呼びかけられました。この運動により全国から寄せられた献金は、浜松市三方原の土地取得に繋がり、行き場を失った結核患者や生活困窮者を支える基盤となりました。後にその土地の一部を譲り受け、十字の園が建てられる場所となつて行きました。

こうした状況の中、ドイツ・ブレーメン教区長P・G・メラー牧師が来日し、上野駅地下道に集まる戦争孤児の姿に、戦後の復興が進まない日本の現実を目にし、衝撃を受けました。「日本の教会はなぜこの現実に手を差し伸べないのか」と言わ�、必要であればドイツからディアコニッセを派遣できると、復興支援を申し出られました。その申し出に最終的に応えられたのは、戦前にディアコニッセの働きに出会つてい



ディアコニッセ来浜

発行者 聖隸歴史資料館

〒433-8558
浜松市中央区三方原町三西五三

聖隸クリストファー大学五号館一階
TEL ○五三（四三九）三四〇七



◆聖隸歴史資料館
開館時間のご案内◆
平日（月～金）の10時～17時
(土・日・祝日と)
聖隸学園の休日は休館)

た長谷川保氏であります。

一九五三年（昭和二八年）十一月、ドイツ・カイザースヴェルト連合に属する五名のディアコニッセと一名の女性宣教師が来日しました。彼女たちは、祈りと奉仕を生活の中心に、看護をはじめ社会奉仕を使命として働いていました。聖隸保養農園や病棟の実践を愚直に行っていきました。長谷川保氏は戦後初の衆議院選挙に当選し、政治の場から生活保護法の制定など社会保障制度の整備に尽力しましたが、その一方で、制度だけでは救えない現場の痛みを強く意識していました。

こうした状況の中、ドイツ・ブレーメン教区長P・G・メラー牧師が来日し、上野駅地下道に集まる戦争孤児の姿に、戦後の復興が進まない日本の現実を目にし、衝撃を受けました。「日本の教会はなぜこの現実に手を差し伸べないのか」と言わ�、必要であればドイツからディアコニッセを派遣できると、復興支援を申し出られました。その申し出に最終的に応えられたのは、戦前にディアコニッセの働きに出会つてい



十字の園老人ホーム創設の決断

デイアコニッセとして奉仕する中で、ハニ・ウォルフ姉妹は、夏になると日本の蒸暑さを避けるため、奥三河の渋川の山に小屋を建ててもらいました。その道すがらの家に、働きに出た家族を待ちながら、床に伏しうつろに外を見ている高齢の方の姿に出会いました。悲しくうつろな目は、無位無冠、無報酬で神の僕として隣人に仕え、老後など考えることもなく、神に委ねていた仲間の将来と重ねられていました。そして、ハニ・ウォルフ姉妹の心に深い問いとしてずっと響いていました。

時が経ち、戦後復興の支援の必要が減つて、ハニ・ウォルフ姉妹は自分自身の日本での働きをどうしていくべきか悩むようになり、その事が毎日の祈りとなっていました。その思いがずっとある中で、ハニ・ウォルフ姉妹のいる渋川の小屋が台風にみまわれ、土砂崩れで小屋が傾き、あわや圧し潰されそうになりました。ハニ・ウォルフ姉妹は、片付けなどながら一人助けを待ちました。四日間眠れない日が続き、だいに話す力も歩く力もなくなつて、布団の上に横になつて「神様、神様、私は何もできない人間ですから、どうして私を日本に送られたのですか?本当に、私にすることがあれば教えてください」と祈りました。



建築への祈り

は落ち着きを取り戻し、そして眠つてしましました。目が覚める前に一つの夢を見ました。その夢では、男の人が部屋に入つて来て、きれいな看護をなさるけれども、部屋にいる一人の高齢の女性とは話もせずに行つてしましました。それで、私がその方のところに行つて注射をしようとすると、「誰も私の話を聞いてくれない」と高齢の女性は泣いておられました。だからそこに坐つてお話を聞いてあげました。

目が覚めたハニ・ウォルフ姉妹は、これまで心に思つていたことに神様が答えてください、「一人で寂しく寝ている老人のための家」をつくることが私に与えられた使命だと心に

力が湧いて元気になりました。

一九五九（昭和三四）年、ハニ・ウォルフ姉妹は一人寂しく寝ている老人のための家、老人ホームの建設のための資金を、祖国ドイツに求め、六年ぶりに帰国の途に就きました。祖国ドイツで、各地の教会やデイアコニッセ母の家を巡り、日本の現状を訴え、日本の風俗を知つてもらう芝居や語りをし、献金を募りました。そして約六百万円という多額の支援が集まりました。この献金はすべて日本での老人ホーム建設に捧げられました。

ハニ・ウォルフ姉妹は、新しくできた老人は「人間の力ではなく、神様の力の大きさでやりたい」と強く望み、聖隸福祉事業団の中でのではなく、新たな社会福祉法人とすることを願い、長谷川保氏をはじめとする聖隸福祉事業団の役員の皆様にお許しいただきました。その後、聖隸福祉事業団の土地の一部を無償譲渡していただき、聖隸厚生病園次長のまま、鈴木生三氏が設立準備責任者となり、聖隸福祉事業団の中から新たな法人が生み出されて行きました。

一九六〇（昭和三五）年十二月二八日、社会福祉法人十字の園の設立が認可され、翌一九六一（昭和三六）年一月二〇日、老人福祉法ができる前の生活保護法による保護施設として「十字の園老人ホーム」が開設さ

れました。定員三〇名という小さな出発でありますましたが、路上で生活をされていた方や寝たきり、身体の弱い高齢者を中心に行け入れられ、ご利用者本位のケアが徹底され、シーツやおむつは職員の手作りで用意するなどして、何もかも工夫しながら支援を形作つていきました。



裁縫

発展と地域福祉への広がり

一九六三（昭和三八）年、老人福祉法が施行される背景となつたのは、デイアコニッセの方々と一緒に作り上げていった十字の園の働きが、衆議院議員であった長谷川保氏を通して国の制度のひな型の一つとされていき、老人福祉法の中に特別養護老人ホームが制度として整えられたことでした。十字の園が工夫して作り上げていった取り組みが、先駆的モデルとして制度に反映され、十字の園は、老人福祉法の特別



養護老人ホームとして、施設の規模は、高齢の方々の困難さに応えるべく大きくなつて行きました。三〇人の小さな施設だったものが、五〇人、一〇〇人、一二〇人と定員を増やしていきました。

そして、特別養護老人ホームが各地で開設されるようになり、十字の園は浜松だけでなく不思議に各地に広がつていきました。

その最初の地が、イエスの友会で一坪献金運動が決起された御殿場の地でした。御殿場では、御殿場教会の方々が、地域の高齢者の課題と向き合い祈る中で、十字の園の初代理事長鈴木生二氏に教会を通じて相談をいたしましたところ、鈴木生二氏は、行く道を家族には相談せず、一心に神様に祈り尋ね求めました。

そして、御殿場の地で一から地域の皆様と一緒に新たな施設を立ち上



初めの十字の園

御殿場十字の園
林富美子医師

げる決断をされ、浜松の地から、御殿場へと居を移し、神様の御導きに従い、一九七一（昭和四六）年に御殿場十字の園が開園されました。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ローマの信徒への手紙一章一五節）の聖句を大切にし、人生の仕上げの段階にある一人ひとりを尊び、他のところでは受け入れが難しいような方に、最期まで寄り添



施設礼拝

一九八一（昭和五六）年には伊豆高原十字の園が、伊豆半島特有の地域課題に向き合うべく、日本老人福祉財団の特別の協力の下、土地を借りて特別養護老人ホームを開園。その際には、地域全体で支えていただき、自治体から助成を受け、海外キリスト教宣教団体や伊東教会を中心とした教会群の支援をいたしました。二〇一一（平成二三）年にはお借りしていた土地をお返しし、直ぐ近くに現在の土地を購入し、全室ユニット型個室の総合福祉施設を移転改築いたしました。

高齢者を「支援される存在」ではなく、「表現する主体」として尊重し、地域で生きがいをもつて暮らし続けられるように、地域での役割を持ちながら関係を継続していく場となります。運営では、地域の方の集まりである地域ふるさと協議会の方々が主体となつて、意見を出し合い取り組んでくださっています。地域のお力になれるように地域連携を進め歩んでいます。

施設は町の中心部にあり、地域にも親しまれ、施設に入所後も家で過ごす時間や、お墓参り、お祭りなどの参加がしやすいようにサポートし、施設に入つても地域の生活が途

二〇〇二（平成一四）年には、介護保険法施行後すべての市町に特別養護老人ホームをとの高齢化問題への投げかけに、松崎教会の方や地域の方々が自分達の地域の福祉をどのように形作つていくか、検討され、その中で高齢者福祉のみならず、伊豆半島の南側、賀茂地区の障がい者支援の課題とも向き合い、両方の施設を一緒になって運営していく事はできないかと協議をしました。そこで、高齢者介護施設に身体障がい者施設を併設することで、身体障がい者の方の高齢化も踏まえた、生涯安心できるケアの実現を目指すことになり、特別養護老人ホーム松崎十字の園と身体障がい者支援施設オリブが、松崎町の土地をお借りして開園いたしました。



伊豆高原十字の園



十字の園は、このように弱く小さくされた方々の困難さに神様が深く目を止められて、その眼差しの中で出会つたことを、自分の使命とした先達の信仰に、ドイツの教会をはじめ、日本の教会、地域の皆様、行政の方々が応えてくださり、支えられてきました。今も、苦難の先に神様の恵みが届けられるように、神様の力を頼りとして、ご利用者の傍らに立ち続けて一緒に歩んでいます。

この他に、ケアハウスを浜松で二つ、御殿場で一つ運営し、伊東市から運営委託を受け養護老人ホームの運営を行っています。

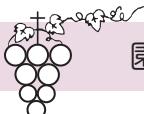


ご利用者と松崎港にて



改築中の浜松十字の園 完成予想図

理念「夕暮れになつても光がある」（ゼカリヤ書一四章七節）に示される先達の信仰が、今の私たちを支え、明日に向かう力を与えてくださっています。一人のディアコニッセの祈りに神様がともされた希望の光は、多くの方の思いに重ねられて広がり、そして、神様が示されたそれぞれの地で、今も礼拝を通して希望の光が指示示されています。



園長さんのクリスマスプレゼント

加藤 はる

特別養護老人ホーム十字の園での私の介護の仕事の出発点になった就職当初のことを思い出します。

1966（昭和41）年、事業の失敗から私たち夫婦と2人の子供（2歳と4歳）、そして夫の母とその子供2人、計7人はすべてを失い、8畳と2畳の小さな借家に身を寄せてこれからどうしたらよいのかと途方に暮れていきました。その時、わかば保育園の宮崎まさ子園長さんのお計らいで十字の園に就職することができ、生きる道が開きました。

勤め始めて最初のクリスマスのことでした。夕食の支度をしていた時、何か音がしたように思い外に出てみると、玄関の前にクレヨン、えんぴつ、スケッチブックが2セットと「主の恵みがあなたがたの上にありますように」という御言葉と葡萄の絵が描かれたお皿が置いてありました。鈴木生二園長さん・フミさんご夫妻から私の2人の子供への心からのプレゼントでした。

なんとありがたいこと、すばらしい園長さんのもとでお仕事ができる！ 喜びと感謝の気持ちでその場にくずれそうになった私。この十字の園で精一杯尽くそうと決心した瞬間でした。その後も折りにふれ「ご苦労さま」とかけてくださった言葉が何よりの救いでした。

介護職員としての生活を振り返るとき、高齢の利用者の方々が激動の時代——戦争、災害など幾多の困難を乗り越え、今日の日本の礎を築いてくださったことが私の心に刻まれています。就職間もないころ園長さんとの面談で聞いた「年齢を重ねても各々の自由と可能性がある」という言葉を胸に、利用者の方々と共に励まし合い、喜びの中で50年以上勤務することができましたことに感謝で一杯です。今でも草取りなどのボランティアで園と関わりを持つことができています。十字の園でのはたらきが私の人生の宝となり、何よりの幸せです。

聖隸福祉事業団 聖隸グループの動き

現地での採用活動をはじめ、日本語や介護技術の研修、来日後の生活サポートまでを一体的に行い、安心して働き続けられる環境づくりを進めています。将来的には、地域の外国人材を支え、育て、定着につなげる取り組みにも広げていく予定です。また、ICT機器の活用推進や障害者雇用の創出など、働きやすい職場環境づくりが評価され、「令和7年度介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰及び厚生労働大臣表彰」において、奄美佳南園が厚生労働大臣表彰優良賞、松戸愛光園が奨励賞を受賞しました。

2026年度からは、Vision2030「未来への選択と最高の質の追求」の実現に向けて、第3期中期事業計画2026-2030が始動します。そして、初年度の事業方針であ

2025年は人口減少と特化した運営を続けるための取り組みを本格化させた一年でした。人材不足が深刻になる中で、外国人材を大切な仲間として迎えることを重要な方針とし、2025年4月に「聖隸国際人材センター」を設立しました。

る「**更なる理念の実践**」と「**デジタル活用**」で未来を切り拓く」のもと、これまで大切にしてきた理念を土台に、デジタル技術を活用したサービスの質の向上と業務の効率化を進めてまいります。

インド聖隸希望の家

聖なる喜び満ちたクリスマスにあたりこれまで私たちが分かち合つてきた命と愛という贈り物に対して神に感謝します。クリスマスは、イエ

12／23 首相官邸にて
右) 聖隸福祉事業団青木理事長
左) 奄美佳南園村田施設長（當時）

常務執行役員
彦坂 浩史

ス・キリストの誕生に示された限り
ない神の愛をあらためて思い起こさ
せてれます。それはすべての人、
特に貧しい人々、見捨てられた
人々、そして障がいのある人々を包
み込む愛です。

障がいのある人や支援の届かない高齢者たちの生活に光をもたらすことができ、クリスマスの平和と喜びが皆様の心とご家庭を満たし、新年が健康と幸福、そして豊かな祝福をもたらしますようお祈りします。

クリスマスの季節は、私たちに思いやりと慈悲の使命を貫くよう促してくれます。暗闇には光を、絶望あるところには希望を、そして尊厳が忘れ去られた場所に尊厳をもたらします。笑顔、親切な行い、そして理解の瞬間一つ一つが、クリスマスの真の精神を映し出します。

スタッフの大学院入学

わたくしデイル・ジョージ・ヴァルゲーゼ（注・アブラハムさん次男）はリハビリテーション科学の修士号を取得することを目指して昨年9月に浜松に来て聖隸クリストファー大学リハビリテーション科学研究科作業療法科学専攻に入学しました。今後2年間、日本で学ぶこの旅は、私の学業と人生における重要な節目となります。



この36年間、私たちと共に歩んで
くださったすべての支援者、友人の
皆様、そして温かく見守ってくださ
る方々に心から感謝申し上げます。
皆様の暖かいご支援と愛は私たちの
施設を利用していいる人と私たちの地
域で援助を必要とする人たちの日々
をより明るく照らす力となつていま
す。皆様のお祈りと暖かいご支援に
より私たちはつましい奉仕を続け

私が作業療法科学の学びを目指す
理由は、障がいを持つ人々に寄り添
うことを私の使命とするからです。
希望の家でのこれまでの経験を通し
て、多くの利用者はケアだけではな
く、自立と尊厳、そして生活の質を
高める体系的な治療を必要としてい
ることに気づきました。作業療法は
身体的、心理的、社会的そして環境
的側面を統合した包括的かつ個人へ

のアプローチを提供するものであり、希望の家におけるリハビリテーションと長期ケアの現場において不可欠であると考えました。そこで私の研究は、体系的な作業療法介入を通じて知的障害のある人々の日常生活スキルと社会参加の向上に焦点を当て、その研究成果を希望の家において体系的に活用し、治療サービスの提供向上、スタッフの能力強化、そして持続可能なエビデンスに基づくケアの実践の促進に役立てたいと考えています。

神様の変わらぬお導きと祝福に深く感謝するとともに、このコースを履修するにあたり、聖隸クリストファー大学の皆様の惜しみないご支援に心から感謝します。故郷を遠く離れた浜松の地で新たな一步を踏み出すにあたり、これまで私を支えてくださった皆様の祈り、愛、そして温かいお言葉に深く感謝し、いつの日かより一層の献身と思いやりをもつて他者に奉仕できるようになることを楽しみにしています。

(12/25 代表 V・アブラハム)

十字の園

新しくされる

昨年来皆様にお祈りいただいております浜松十字の園さつき棟改築工事におきまして、いよいよ今年は完成する年となります。



趣が随所に見られ、床はピカピカに磨かれていました。廊下に面した大きな窓からは、木漏れ日がさし、ご利用者が日向ぼっこをされていた穩やかな風景が思い出されました。

「この場所にわたしは平和を得ると万軍の主は言われる」とあり、新しくされるさつき棟を神様が恵の場としてくださることに信頼し、現在狭になつた本館棟では、ご利用者、職員が工夫をしながら上手に生活をして下さっています。ご不便をおかけして申し訳ありませんが、日々進む工事の進捗をお伝えしながら、新たな生活にむけて心も体も準備をして完成の時を待っています。これまでの旧さつき棟は、五〇年前に建てられることもあり、木の



聖隸學園

新設 グローバルスクール中等部
高等部 開校

本年4月に聖隸学園の新たな中高等学校として「聖隸クリリストファーローバルスクール初等部・中高等部」がスタートします。英語イマージョン教育と、昨年認定を受けた国際バカロレア・ディプロマプログラム（D P）の実施により、「隣人愛」の精神を世界で發揮でける次世代のグローバルリーダーの育成を目指します。D Pは海外大学進学のステップにもなる高校2・3年次に行なう世界共通の教育プログラムです。



高校野球部は昨年、夏季静岡県大会において創部後初の優勝を飾り、悲願の甲子園初出場を果たすことができました。甲子園にはアルプススタンドを埋め尽くす大応援団が集結し、聖隸一体となつた声援は選手たちのプレーの力となりました。1回戦は見事勝利し、全国に「聖隸クリストファーリー」の校歌（讃美歌393番）を響かすことができた忘れられない、記念すべき夏となりました。多くの皆様からご厚志と温かいご声援をいただき、心より御礼申し上げます。今後も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。



■甲子園初出場ご支援に感謝

1

理事長 小柳 守弘

ストファーム」の校歌（讃美歌393番）を響かすことができた忘れられない、記念すべき夏となりました。多くの皆様からご厚志と温かいご声援をいただき心より御礼申し上げます。今後も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。

牧ノ原やまばと学園

★障碍者支援施設を希望するE.P.A生は少ない中、垂穂寮の二名に加え、本年も希望寮にインドネシア人女性二名が就任。重い障碍者たちに初めて接し衝撃を受けたようですが、最近は「かわいい」と語っています。E.P.A生全員が、看護師資格を持つクリスチャンです。

★二つの特養ホームに、法人の障碍者施設から転入する人が増え、ホーム創設の目的を果たしています。

★聖ルカホームでは「ユニットリー・ダーハー・実地研修施設」になるよう勧められ、三か月間講師の指導を受け、中身の改善と充実に努めました。判定は、三月初めの予定。



近くの河津さくらを見に

小羊学園

小羊學園

①「経営／支援／人材／研修／建物・環境／地域」の六グループからの提案も含め、「やまばと未来計画」2026年度分を実施します。

②四年後の「小学校統合と廃校／跡地活用」に関し、承認されれば「未来の福祉施設計画」に着手。



仲間と共に 干し柿づくりに挑戦

★逝去されたご婦人一人から、計二千八百万円の遺贈が寄せられ、その一部を、九事業所の「車」買替えのため活用させて頂きました。感謝。★九月に最大級の竜巻発生。法人は無事でしたが、職員(二十四名)の家屋が被災。全国から寄せられた見舞金七〇万円余を活用させて頂きました。皆で感謝しています。

つばさ静岡創設 20 周年 (コロナ禍を経て 5 年ぶりのフェスタつばさ集合写真)



稻松前理事長より
季囃を受ける雨宮理事長

ブラジル希望の家

社会福祉法人 ブラジル希望の家は、知的障がいのある63名（女性33名、男性30名）を支援している福祉施設です。ブラジル・サンパウロ州イタクアケセツバ市に所在し、利用者一人ひとりに寄り添った包括的ケア、社会的包摶、自立支援を重視した活動を行っています。

当法人の使命は、知的障がい者および高齢者の生活の質の向上を図り、人間性を尊重した、倫理的かつ専門的な環境のもとで、自立を促進することです。すべての活動は、尊重・尊厳・人間の価値の重視を基本理念としています。

な困難がありました。しかし、開催された記念会においては、そうした苦勞以上に利用者の皆さまとの樂しく充実した日々や、多くの方々に支えられた感謝の歩みが語られました。

本年、小羊学園は創設六十周年を迎えます。創立者の山浦先生の三十年、稻松前理事長の三十年と、一貫して重い障がいを有する方々を支援する歩みが続けられてきました。働き手の確保や多くの福祉課題のある厳しい時代ですが、神様の導きと皆様の支えに感謝しつつ、これからも同様の歩みを続けてまいります。



■陶芸・紙おむつ製作活動の修了 および修了証書授与



陶芸お

よ

び

紙

お

む

つ

製

作

の

作

業

所

に

お

い

て

1

年

間

繼

続

し

て

活

動

を

行

つ

た

結

果

、

利

用

者

は

学

習

の

機

会

を

得

る

と

と

も

に

、

手

作

業

の

技

能

向

上

や

自

己

肯

定

感

の

強

化

を

実

感

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ

と

が

強

化

す

る

こ



神戸聖隸福祉事業団

■創業50周年、そして第6期中期計画へ

202

5年度



202

5年度

26～2028年度）のもとで事業を推進していくまです。第6期中期計画では、「ミドルアップ・トップアップ」という考え方を基本方に据えました。理事会・常任理事会をトップ、各施設・事業所をボトムとし、その中間に但馬地区、神戸地区の二つの地区をミドルとして位置づけています。地区のビジョンや方策を重視し、それを法人全体の中期計画の中核として反映させ、全体へと展開していく仕組みです。



ささまざまの節目を年間を通して通じて、さまざまな記念事業を実施し、記念式典（記念礼拝）（6/21）、記念式典（10/17）には、多くのご利用者、ご家族、関係者の皆さまにご参加いただき、これまでの歩みに感謝をお伝えするひとときとすることができます。

また、記念事業の一環として実施した第6回タイ国理念研修では、日頃より多大なご支援をいただいている聖隸福祉事業団から4名の職員をお迎えし、創業の精神や理念を改めて共有する、非常に有意義な研修となりました。

そして、51年目を迎える2026年度からは、第6期中期計画（20

イエス・キリストの活動はこの直前の聖書箇所で、「教え」と「宣べ伝え」と「いやし」として3つにまとめられています。現代では順番に「教育」「宗教」「医療・福祉」として多くのキリスト教諸団体の活動の基礎となっており、聖隸グループもこのイエス・キリストの地上での働きに挑戦・参与して来た、ということができるでしょう。

聖書の言葉は「働き手を送つてくださるよう」に、収穫の主に願いなさい」と続きます。歴史資料館に記載された名前や出来事の連続は、聖書の視点からは「収穫の主がどのような働き手を送つて下さり、どのような結果を得たか」ということであり、「隣人愛」の教えの実践を「教育」「宗教」「医療・福祉」の視点から、具体的に、誠実に取り組んだ人々の記録なのです。歴史資料館はその諸々の出来事を「想起しつつ、思いを巡らす場」です。多くの働き手が呼びかけられてイエス・キリストの教えと働きを祈りつつ実践した事について、「今」があることを想起し、

イエス・キリストの活動はこの直前の聖書箇所で、「教え」と「宣べ伝え」と「いやし」として3つにまとめられています。現代では順番に「教育」「宗教」「医療・福祉」として多くのキリスト教諸団体の活動の基礎となっており、聖隸グループもこのイエス・キリストの地上での働きに挑戦・参与して来た、ということができるでしょう。

また「将来」の働きに思いを馳せる場です。

学校法人聖隸学園 宗教部主任 仲 義之
マタイによる福音書九章37～38節

そこで弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送つてくださるように、収穫の主に願いなさい。」

その研究によって結核に対する特効薬となるストレプトマイシンを発明し、1952年にノーベル生理学・医学賞を受賞した科学者セルマ・アブラハム・ワックスマン博士の墓碑には、「地が開いて、救いが実を結ぶように。Earth will open and bring forth salvation.（イザヤ書45章8節）」という言葉が刻まれています。科学者として土の中の菌類（放線菌）の研究を積み重ねながらこの聖句がその座右にあつた事は、祈りの心が医学の進歩の情熱と結びついた一例として記憶され続ける価値があると思います。

「救いの実りを収穫したい。」聖隸グループの刻んできた歴史においても、それを目指した働き手たち、またその方々によって救われた人たちが確かにいました。将来を祈りつつ、常に記憶し続けていきたいと思います。

「実によつて木を知る」

16節、「あなたがたは、その実によつて彼らを見分けるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集めん者があろうか。そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。」

日本の中のウメモドキは私の好きな木ですが、その中でクロウメモドキといいうのが茨の一種にあります。小さい黒い実が成る。それがぶどうによく似ているのですね。それから「あざみからいちじくを集める者は」とあるのは、あざみの一種で、花が遠くから見るといちじくの実に似ているものがあつたのだそうです。だから「そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ」と。「悪い」というのは悪性のとかよこしまなどか、悪意を持ったというような意味の言葉です。

18節、「良い木が悪い実をなせることはなしし、悪い木が良い実をなせることはできない。良い実を結ばない木はことごとく切られて、火の中に投げ込まれる」。もうぼろぼろになつてしまつて、だめになつてしまつたような木というものは、はいい実を結ぶということはありえない。だから切られて火の中に投げ入

「あなたたちのことは知らない」
21節、「わたしに向かつて『主よ、主よ』と言ふ者が、みな天国に入るのではなく、主よ、といくら言つても皆が天国へ、神の国に入るのではない。この神の国、天国は天の神の支配、神の統治というよくな意味の言葉です。二つ言葉が重なつてあります。つまり主よ、主よと言つていても、そういうものはみんな神、天は神の在すところという意味です、神の在すところの神の統治、神の支配に入つてゐるのではない。」「ただ、天に在すわが父の御旨みむぢを行ふ者だけが入るのである。」「御旨」はセレーマというギリシャ語ですが、これは意思された内容、つまり神が意思されたその内容を行ふ、「行う」は実行する、働く、これはポイオーです。実行する、行う（神の意思された内容を実行する、あるいは働くという意味もあります）者がだけが入るのである。「入る」という言葉、これは一人ずつ来るという

私がやつぱり個人というものを、一人ずつ神様がお造りになつたということを考えるのです。人格というものは全く違つてゐる。だから私どもは、いいかげんな生活ができないわけです。それそれが自分の人格に対する自分の行動、生涯に對して責任を持つてゐる。それは神に全て覚えられてゐるということです。だから御旨を、神の御意志を実行する者だけが一人ずつ神の国へ入るのだということです。

私どもは、ただイエス・キリスト、十字架を信ずる信仰によつてのみ神の国に入るのですけれども、その点をはずすと大変なことになる。私どもは何らの功績もなく神の国に入りますが、イエス・キリストの十字架の罪の赦しによつてのみ、神の

なたがたはその実によつて彼らを見分けるのである」。どういうものであるか彼らを実によつて見分けなさい。だから実際そこで生活をしているやり方、行いをしているやり方を見れば、それが偽預言者であるかほんとうの預言者であるかといふことはあなたがたにわかる。その実によつて彼らを見分けるのである。

理に生きようとする。ただ私どもの罪がまだことごとくは解決されておらず、救いが完成しておりませんから、なお私どもは多くの間違いを犯します。間違いを起こさない人間はどんなに救われた者としてもあり得ない。私どもの救いは天に至つたときには完成するからで、地上ではやっぱり開始と成長だけがある。

これはカルビンもウエスレーも言っていますね。ルターははつきりと、蛇の頭は碎かれてもなお体が蟲^{うなぎ}で頭を叩き潰しても体が動いている。我々の中の罪のかしらである頭は碎かれた、しかし私どものうち、なお蛇の体は動いている。それにもかかわらずイエス・キリストの十字架をほんとうに知つた時には、私どもの人生の目的が変わったということですね。

(聖句の引用は口語訳聖書による。既刊「長谷川保聖書研究 マタイによる福音書」より)

国に入るということを教えられた時
に、私どもの生活がどんなに間違い
だらけのものであつても、ひねくれ
た性質のものであつても、本質的に
変わつてくるということです。
つまり回心ということ、悔い改め
るということは、私どもの身にな
お、実に卑しい汚いものがくつつい
てきますけれども、それでも確かに
私どもの人生の目的は根本的に変